

45分で  
わかる!



MAGAZINE HOUSE  
45 MINUTES SERIES  
#22

# 誰でもできる やさしい作曲術。

「やりたい」と思ったら、  
必ずできるようになる!

## 青島 広志

45分でわかる!

## 誰でもできる やさしい作曲術。

「やりたい」と思ったら、必ずできるようになる!

2011年12月22日 第1刷発行

著者 青島広志  
発行者 石崎 孟  
発行所 株式会社マガジンハウス  
〒104-8003 東京都中央区銀座3-13-10  
☎ 書籍編集部 03-3545-7030  
☎ 受注センター 049-275-1811

編集協力 眞人堂株式会社  
楽譜作成 安藤伸二  
印刷・製本 株式会社光邦

©2011 Hiroshi Aoshima, Printed in Japan ISBN 978-4-8387-2374-4 C0095

乱丁本・落丁本は購入書店明記のうえ、小社製作部宛にお送りください。  
送料小社負担にてお取り替えいたします。定価は表紙・帯に表示してあります。

本書の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)は  
禁じられています(但し、著作権法上での例外は除く)。  
断わりなくスキャンやデジタル化することは著作権法違反に  
問われる可能性があります。

マガジンハウスのホームページ <http://magazineworld.jp/>

45分でわかる  
常州大学図書館  
誰でも藏書章  
やさしい作曲術。

「やりたい」と思ったら、必ずできるようになる!

青島 広志

マガジハウス

誰でもできる やさしい作曲術。 / もくじ

Introduction / まえがき ..... 005

第1部 作曲のススメ

1 / 作曲のキホン ..... 009

曲をつくる、演奏する  
ドから始まりドで終わる  
3つの音でも曲はできる  
5つの音のなつかしさ  
「名作はどれも似ている」  
作曲とは楽譜を書くこと  
歌をつくる  
リズムを考える  
記号を覚える  
歌曲を書く  
クライマックスをつくる  
動機から主題へ  
変奏のつくり方  
一部形式から二部形式へ

三部形式へ

楽しい雰囲気、悲しい雰囲気

24の調

3つの和音

コード・ネームを和音で知る

聴いた音を書き取る

リズムと拍の関係

曲の長さや速さ

## 2 / 曲を演出する ..... 051

作曲は緻密な作業

付点について

楽譜に合った演奏

音を変化させる

## 第2部 曲を伝える

## 1 / 曲にふさわしい表現をもとめて ..... 059

歌うとは「訴う」

詞を見つけよう

旋律から和音を導き出す

伴奏のための楽譜

名曲を参考に

日本語のリズム

高度な作曲

大正時代の名曲

ヨナ抜き音階

効果的な伴奏

[楽譜の基礎知識]

## 2 /

特別編

インターネットで作品公開する

三浦一紀 ..... 086

たくさんの人に曲を伝える

ホームページを作成する

ブログを作成する

動画投稿サイトを使って

曲を公開する

Afterword /

あとがき ..... 091

## まえがき

まずはじめに言ってしまうえば、作曲とは、やらなくても一向に差し支えのない作業です。演奏や研究はするが、作曲はいっさいしない、という人は多いのです。

しかし、「やりたい!」と思ったなら、必ずできるようになるのです。これが楽器などの練習とは違うところなのです。曲を作りたいと思っている人の頭の中には、すでにできかけのメロディーの断片が、いくつも浮かんでいるものだからです。あとはそれを、楽譜という目に見える形で実体化すればいいだけです。楽譜の書き方は、残念ながら少し勉強しなければなりません、もともと大事の前の小事ですから、苦勞とは感じないでしょう。

もしも、まったく楽想が浮かばない人でも、曲を作ることは可能です。本文で詳しく説明していますが、多くの曲を知っていれば、それをもとに別の曲を作ることができるのです。これは決して盗作ではなく、作曲の学習の一つとして指導されることです。

筆者は、小学3年生のとき、モーツァルトが4歳で作曲したことを知り、ピアノを習っていたので五線ノートに何曲か書いてみましたが、楽譜の書き方を知らなかったのでメチャメチャな譜面でした。その後、中学2年生でクラスの歌や、夏休みの宿題で6曲の歌曲を書きましたが、このときは少し

「楽典」の本を読んだりして、それらしい楽譜に仕上がったものです。その後、専門の先生に習うことになるのですが、まったくメロディーの作り方などは教えていただけず、和声や対位法といった理論のみ、作品は当方が自覚的に書いたものを持って行って、感想をうかがうだけのレッスンでした。つまりこれは、「創作」とは教えてできるようになるものではないこと、理論をよく知ればそこから作曲もできるはずだ、という真理に基づいているのでした。

ですが、そんなつき放したような指導法では、現在は誰も納得しません。ですからここでは、できる限りやさしいメロディーの作り方を紹介することにしました。楽譜も出てきますが、最初は読めなくても構いません。しかし、楽譜は音楽の文字なので、ちょうどはじめは読めない外国語の本も、仮名（ルビ）を振っているうちにいつか読めるようになるのと同じように、いつか読めるであろうことを期待します。そして、必ず音を出してみることが重要です。近くに、安いものでいいですからキーボードを用意して、まずは一本指で適当に弾くことから始めましょう。素晴らしい曲が生まれるかもしれませんよ！

青島広志

第①部

---

作曲のススメ

---



# 1 作曲のキホン

## 曲をつくる、演奏する

あなたさまは、音楽が好きですか？ この本を手にとったということは、興味がおありなのでしょう。では、音楽を聴くのが好きか、自分で創り出すほうが好きですか？ この本のタイトルに「作曲」とありますので、きっと後者でしょうね。

音楽の創造には2つの種類がありまして、ゼロから曲を作る**作曲**と、すでにある曲を再現する**演奏**とがあります。どちらも芸術的・感情的な行為ですが、実は作曲だけでは音楽にはなりません。そこに必ず演奏という行動を通さなければならぬのです。その意味で自分で作った曲は何とか音にしなければ無意味なのです。ということは、最低、何の楽器でも構いませんから、音を出せることが作曲するにあたっての必要条件でしょうね。そしてこのことは、自作を確認するためにも必要です。もっとも、誰か別の人に頼んで演奏してもらう方法もあります。有名な作曲家の奥さんがピアニストだったりするのは、恐らくはそのためでしょうが、いちいち呼び寄せるのも面倒ですね。何とか自分でやってみましょう。

数ある楽器のうちで、もっとも簡単に音を出せるのが  
キーボード  
鍵盤楽器で、ピアノ、オルガン、木琴、シロフォン  
シロフォン  
、シンセサイザーなど  
があります。シンセサイザー以外は、鍵盤に触ればすぐ音  
が出ます。

## ドから始まりドで終わる

ドレミファソラシ（正確には<sup>スイ</sup>Si）という音の高さを表す言葉をご存知ですか？ 白い鍵盤だけで弾けます。基準になる「ド」の位置は、黒鍵が2つ並んでいるところの左隣です。すべての音域の中にいくつかあるはずですが、なるべく真ん中のドを覚え、そこにシールを貼ってもいいでしょう。

一般に、曲はこのドから始まってドで終わる（主音と言います）ものがほとんどなので、一本指だけでいいですから弾いてみましょう。音の長さなど気にする必要はありません。全体があまり長いとだれた印象になりますので、鍵盤を押すのは9回だけと決めてやってみましょう。

たぶん、「ドレミファソファミレド」みたいになるでしょうが、それを楽譜に表すとこうなります。〈譜①〉

### 〈譜①〉



シンセサイザーなら、機械に記憶させておくことができますし、楽譜にも直してくれますから、それを活用しましょう。でも、こんなのは曲じゃない！ などと言わないでくださいね。バイエルとかツェルニーといった作曲家の書いた練習曲のはじめのほうは、こんなものなのです。ただ、ちょっと違うのは、そうした人たちの曲には拍子という、音の長さについての決まりがあることですが、はじめはそれは無視しましょう。日本の民謡や、ヨーロッパ中世の重要な音楽だったグレゴリオ聖歌は、実は拍子の感覚がないか、無視されているものが多いのです。

### 3つの音でも曲はできる

次に、「ドレミファソラシ」の7つの音ではなく、もっと限定した音だけで弾いてみることにしましょうか。打楽器の曲などは1つだけの音の高さしか持っていませんし、わらべ歌などは2つだけ、ということもありますが、それではあまりに単純なので、3つにしましょう。たとえば「ミ・ソ・ラ」だけに決めることにします。

これを、左手で自分の体を打ちながら（これを「拍」と言います）、右手で弾くわけです。すると「ミソラ、ミソラ、ラソミソラ」というようなメロディーができると思います。

〈譜②〉

## 〈譜②〉

ゆび  
1 2 3 1 2 3 3 2 1 2 3  
ミ ソ ラ ミ ソ ラ ラ ソ ミ ソ ラ

これなどは立派に曲で、しかも日本人の感性でしか作れないものです。わらべ歌や民謡に用いられる基本の音ですが、こうしたところからたくさんの日本的な名曲が生まれているのです。「さくらさくら」「六段」などがそうですね。古臭くって、とおっしゃる方、決してそんなことはありません。それらをもとにして、現代的なオーケストラ曲も生まれているんですよ。最近では（2010年）、坂本龍一先生が、琴とオーケストラのための協奏曲を発表して話題になりました。

## 5つの音のなつかしさ

もう少し、音の数を増やしましょうか。いろいろ考えられますが、ドを基準にして「ドレミソラ」はどうでしょう。何となくなつかしい感じがしませんか？ それもそのはず、明治時代から作られてきた文部省唱歌や童謡がこの音でできているからです。

実は、この音の並びは古来、日本にもあったのですが、決定的だったのは明治時代に、政府がこの音を使って学校の音楽の教材を作らせたためです。鎖国していた日本に開国を迫

ったのはアメリカですね。19世紀アメリカ音楽のルーツは実はイギリスです。イギリスと言えばスコットランド民謡が有名で、「麦畑」などがありますが、その音の使い方が、これとまったく同じでした。つまり、日本の近代音楽はアメリカ経由のイギリスから、ということになるのです。

音の数は5つなので「<sup>ペンタトニック</sup>五音音階」とか、「ドレミファソラシ」の「ファ」と「シ」がないので、4番目と7番目の音がない、すなわち「<sup>ヨナ</sup>四七抜き旋法」と呼ばれます。つまり和洋<sup>せっちゅう</sup>折衷の音楽が生まれるのですね。

ではこれで作ってみましょう。左手で拍を打つのをお忘れなく。可能なら「1・2、1・2」と強弱を交互に打ってみてください（2拍子になります）。すると「ドレミ、ドレミ、ソミレド…」というような曲ができるはずです。このとき、繰り返しを恐れないこと、同じ方向（たとえば上がるだけ）ばかりに固執しないことに、少しだけ注意してください。

〈譜③〉

①は強拍、2は弱拍

ド レ ミ      ド レ ミ      ソ ミ レ ド      レ ミ ド

## 「名作はどれも似ている」

ところで、この曲〈譜③〉は何か似ていませんか？ そ

うです、童謡の「チューリップ」ですね。井上武士先生の名作ですが、これが子供たちに親しまれているのは、詞のイントネーションとメロディーがまったく一致しているからなのです。また、ピアノで弾いても、親指をドの鍵盤に置いたらほとんど移動させることはなく、5本の指だけで弾けるのです。皆さんも小さい頃歌っているかもしれませんね。

ではこれは盗作か、というと、そういうものでもないのです。盗作とは悪意を持った行為で、自然に似たものはそうは呼びません。その後のメロディーを変えればいいのですし、気付いた段階で、ほんの少し音を入れ替えればそれでいいのです。

日本最高の俳優と呼ばれた森繁久彌さんの作詞・作曲「知床旅情」は昭和40年代に作られましたが、大正2年頃に作られたという「早春賦<sup>ふ</sup>」（吉丸一昌作詞、中田章作曲）にそっくりですし、その「早春賦」もモーツァルトの「春への憧れ」と瓜二つです。そのモーツァルトでさえも、先生のクリスティアン・バッハ（大バッハの末子）が書いたソナタをそのまま使って、自分の名でピアノ協奏曲として発表していますから、みんな似たことをやっているのですね。

それでは、腹をくくって、有名な曲をもとにしてそれを少し変えて、新しい曲だと言い張ってみましょう。明治時代から歌われてきた童謡に「蝶々<sup>ちょうちょう</sup>」があります。これはスペイン民謡なのですが、「ドレミファソ」の5つの音だけででき

ています。その歌詞で言うと「蝶々、蝶々、菜の葉に…」の2回目の「蝶々」だけ音を変えてみましょう。「ソミミ、レファファ」とか…。〈譜④〉

これだけでも違った曲になりますが、それならいっそのことはじめも「ミソソ」にしてしまうとか。

〈譜④〉



ベートーヴェンの最高傑作「第9交響曲」終楽章のテーマは有名な「歓喜の歌」ですが、実はずっと後の作曲家ブラームスの「第1交響曲」のテーマがそれによく似ていて、「ベートーヴェンの第10交響曲」と半ばからかわれて言われることがあります。それに対してブラームスは「名作はどれも似ているのだ」と答えました。ブラームスが尊敬するベートーヴェンの先例を識らないはずはないでしょうから、意識して似せたことになりますね。ですから、名曲を少し変えたものも、また名曲なのです。

それでは「蝶々」を意識的に変えた新作を掲げましょう。タイトルは、そう——「蛾<sup>が</sup>」にしましょうか。〈譜⑤〉